

お客様タイプ別 外貨建て保険のニーズは このように喚起しよう

外貨建て保険に関心があると思われるお客様のタイプを挙げて、ニーズ喚起のアプローチ方法について解説する。

伊藤 亮太 スキラー・ジャパン(株)
ファイナンシャルプランナー / CFP®

1 加入できる保険が減ったことに不満を持つお客様
外貨建ての魅力伝える
お客様の不満を和らげる



こんなトークを展開しよう
お客様「マイナス金利の影響で、生命保険の販売が停止になるなんて思ってもいなかったわ」
担当者「おっしゃるとおり、生命保険の販売停止や保険料引上げなどが生じています」
お客様「こんな状況では、保険に加入したくても加入できないわ」
担当者「死亡保障など保険を利用することで得られるメリットもありますよ」
お客様「それは分かるんだけど……。いま魅力的な保険はないんですよ!」
担当者「それでしたら、外貨建て保険はいかがでしょうか。以前に比べれば、為替相場も円高に振れていますし——」

マ イナス金利政策の影響で、市場金利はさらに低下。16年9月1日時点の10年国債の金利はマイナス0.047%と、いまだマイナス金利は大きな影響を及ぼしている。生命保険でも16年4月以降、貯蓄性の高い保険を中心に販売停止や保険料引上げが相次いでいる。こうした状況のため、終身保険や個人年金など、貯蓄性の高い保険を検討していたお客様からは不満も聞かれる。
そこで、外貨建て保険を選択肢の一つとして提案してみよう。保険料や利回りに不満があるのであれば、外貨建て保険は魅力的なはずだ。そもそも加入できる保険が減ったことに対して不満を持つお客様は保険に加入する意向がある。そのため、魅力的と感じる提案を行えるのであれば、加入した

いと考えるだろう。
例えば、円建ての保険と比べると利率が高い点は、1、2年で見ればそんなに差は出ないものの、中長期的に見ればその差は大きく開いていくことを説明しよう。もちろん、円換算した場合には為替差益・為替差損両方あり得ることは必ず説明する必要がある。
それとともに、仮に外貨建て一時払い保険を中途解約して解約返戻金が払込保険料を上回った場合、その差額は一時所得扱いとなるため、50万円以内であれば課税されない点も説明しよう。増やすだけではなく、節税効果も得られる点を評価してもらえればはずだ。
円高に振れた今だからこそ、為替差益が得られる可能性があることをプッシュするのもよい。
こうして保険加入に対するお客様の不満を和らげ、外貨建て保険を提案することにより、お客様も保険加入を真剣に検討してくれることになるだろう。

利率が高い点に加えて
節税効果も説明しよう

2 高い利率と為替差益によって 運用効果が期待できる点を説明

将来の相続に備えて資産を増やして残したいお客様



こんなトークを展開しよう
お客様「そろそろ相続対策も考えないといけない年になってきたよ」
担当者「相続対策ですと、やはり節税面が優先されますか」
お客様「節税もそうだけど、できれば資産を増やしたうえで残せないかと思っていてね」
担当者「それであれば、外貨建て一時払い終身保険のご利用はいかがでしょうか」
お客様「なぜその商品がいいのかな?」
担当者「外貨のほうが利率が高いため、資産を増やすことが期待できるうえ、相続対策にも活用できるからです」
お客様「それはいいね。詳細を聞かせてよ」

厚 生労働省「2015年人口動態統計月報年報」によれば、15年の日本の死亡者数はおよそ129万人であり、75歳以上の死亡者数が7割を占める。今後1年間における死亡者数はさらに増加する見込みであり、四人に一人が65歳以上という現状を考慮すれば、相続を経験する家庭も多くなるものと想定できる。相続対策に本腰を入れるシニア層も増えるだろう。

相続対策に保険商品は有効だ。保険金受取人の指定が可能であることから、確実に保険金を渡したい人に渡すことができる。しかも「法定相続人の数×500万円」の非課税枠が利用できることから相続税対策としても有効だ。

担当者としては、この非課税枠

をうまく利用して節税効果が高くなる保険設計を提案してみよう。単純に現金で残すよりも大きく節税ができる点は、保険ならではの利点といつてよいだろう。
また保険金は、遺産分割協議を経る必要がないため、通常は亡くなったから1週間程度で保険金を受け取ることができる。遺族の当面の生活保障に利用できる点もアピールできる。
為替差益を享受することで大きく増やせる可能性も

外貨建て一時払い終身保険は、通貨によっては利率が高く設定されており、大きな運用効果が期待できる。例えば、メットライフ生命の米ドル建て積立利率変動型一時払い終身保険(金融機関窓口取

扱プラン…16年9月1日～9月30日の間に契約が成立した場合)の積立利率は、積立利率保証期間15年で2.0%となっている。
豪ドル建てであれば積立利率保証期間10年で2.25%。これは仮に為替差損が発生した場合でも、その損失を十分カバーできる可能性があると見え、場合によっては為替差益を享受することで大きく増やすことも可能といえる。
こうした点から、相続(税)対策を検討中で、かつ「資産を増やして残したい」と考えるお客様には、外貨建て一時払い終身保険を提案してみよう。場合によっては、二次相続を考慮して、夫婦で加入することを提案してもよい。その際は、通貨分散や運用期間を分けるなどリスクヘッジについての説明も忘れずに行おう。

ポイント

非課税枠の活用とともに、通貨によっては大きな運用効果が期待できる点をアピール。リスクヘッジに関する説明も。